

感情よりも期待値

9月に入り、朝晩は過ごし易くなりましたが、日中はまだまだ残暑が厳しい日々が続きます。顔の汗を拭く、私の「青いハンカチ」はまだまだ手放せません・・・。

さて、先日、1億円以上の金融資産を持つ富裕層の資産が急拡大していることが、ある民間調査の調べで分かったとの報道がありました。2005年の富裕層の金融資産額は213兆円で、2年間で50兆円も増えたそうです。富裕層の資産構成は預貯金を除く株式や投資信託などのいわゆるリスク資産が全体の67%を占め、1億円未満の層での57%に比べて、相対的にリスク資産の占める割合が多いようです。どうやら、景気回復による株高が追い風となったようです。

最近、「貯蓄から投資へ」の流れから各金融機関がいろんな投資商品を用意し奨励しています。税制においても、個人の上場株式や投資信託の売却益に対しては、一律10%という軽減税率で投資への流れを後押ししています。なお、これらの優遇税制は2007年(投資信託は2008年3月まで)までで、その後の税率は2倍の20%になります。今後の税制改正で延長の可能性はありますが、もし延長がなければ、来年後半にかけては駆け込みの売りが出て、相場は一時下落する可能性があります。

ところで、投資、特に株式投資などは人の心理が相当影響するものです。人間どうしても、利益は出来るだけ多く、損は出たくない、という感情が前面にでます。この感情が時には妨げとなることもあります。特に、投資の初心者であればなおさらです。ここで面白い心理テストがありますので、ご紹介します。

Q1. あなたはどちらを選びますか？

- ① A 必ず80万円もらえる B 100万円もらえるが15%の確立で1円ももらえない
- ② A 必ず80万円払う B 100万円払うが15%の確立で全く払わなくていい

専門家によると、どちらの回答が有利かは、それぞれの金額に、それが起きる可能性をかけた「期待値」で判断するそうです。①ではもらえる金額の期待値は、Aは80万円×100%=80万円、Bは100万円×85%=85万円となります。②では払う金額の期待値が、Aは80万円×100%=80万円、Bは100万円×85%=85万円となります。

株式投資は利益を大きく、損失を低く抑えるための冷静な判断が必要となるので、①はB、②はAと回答するのが理想的な投資家タイプだそうです。しかし、実際には、多くの人は①はA、②はBを選ぶそうです。このタイプの方は、株式投資において、利益の出ている銘柄を売り急ぐ反面、損失の発生した銘柄を保有し続ける傾向があるそうです。ちなみに、①A ②Aは堅実型、①B ②Bは一発勝負に賭けるタイプだそうです。さて、皆さんはどちらかでしたでしょうか？

Q2. 実際に持っている株を持ってないと仮定して、「買いたくないから売り」と言い切れますか？

これはいかに思い入れを排除できるかという問いで、どうしても長らく持っている銘柄には思い入れが強くなるものですが、投資家にとっては含み損を抱えた「塩漬け」の株式は買いたい銘柄に再投資できずに投資効率が悪くなってしまいます。過去は振り返らず、「今も買いたい」銘柄であるか再度自問し、そうでない場合は割りきって売れるかどうか、従って「はい」と回答した方が投資家向きといえます。これは、経営でいうリストラと似た考え方だと思います。

Q1 では ①A ②Bを選んだ私はどうやら投資家向きではなさそうですので、地道に本業でコツコツとやりたいと思います。